

女性技術者の紹介

湖畔で

株式会社 西日本技術コンサルタント / 谷 尚美
上水道部 / 上水道 1 課 / 係長

1. はじめに

私たちは、明るい未来を目指しています。時には迷いが生じることもあります。そんなとき、小さな幸せに気づくことができれば、心がほっとします。身近な自然に感謝することで、豊かさを感じることができます。

2. 会社のこと

(1) 沿革

このような機会をいただきましたので、当社について簡単に紹介いたします。

西日本技術コンサルタントは1968年（昭和43年）に京都市において、上水道設計を始めました。その後、1971年（昭和46年）本社を滋賀県草津市に移転し1977年（昭和52年）には三重事務所を津市に開設しました。さらに、近畿一円へと事業展開を図り、今日に至っております。

1972年から1997年にかけて琵琶湖の水資源開発と治水、地域の社会基盤整備を目的とした『琵琶湖総合開発事業』に伴い、我が社は、上水道設計以外にも「水質分析」「振動騒音等の環境計量証明業務（1978年）」「下水道設計」「廃棄物設計」などを手掛けています。

(2) 職場環境

本社は琵琶湖まで歩いて行ける距離に位置していま



写真-1 社屋



写真-2 社屋屋上からの琵琶湖側



写真-3 湖岸緑地公園にて

す。琵琶湖の向こうに沈む夕焼けがとても美しい自然豊かな景観が広がります。

写真-2の右側の山が比叡山で、真ん中あたりの山は京都の五山の送り火で火が付くあのあたりの山です。

琵琶湖岸には、湖岸緑地公園という都市公園があります。会社の周辺にも何か所かのエリアがあり、バーベキューやキャンプなどのアウトドアが楽しめる施設もあります。自然を満喫しながら手軽に楽しめる素晴らしいアウトドアスポットです。

(3) 働き方改革、キャリア形成、人材育成

従業員は88人の規模の会社ですが、公共調達において加点評価を受けることができる「えるぼし」認定企業で

す。「子育てサポート企業」として、厚生労働大臣の認定（くるみん認定）を受けています。

また、感染症拡大の影響をきっかけに、時差出勤やリモートワーク、オンライン会議に対応しました。

長時間労働の改善に向けプロジェクトに取り組み、部下の帰社時間が管理職の評価基準の一つになります。

技術力の向上を図るため、定期的な研修や資格取得の奨励のほか、ビジネススキルの向上および管理職の計画的な育成を目的とし、動画配信型オンライン研修サービスを導入しています。

自分の興味や関心を広げ、様々な分野や人と関わりながら「人生100年時代の社会人基礎力」を高め、自己実現や社会貢献に向けて行動することを心がけています。

3. 考えてみた

(1) 調べてみました。

協会の中期行動計画においても社会貢献としてSDGsの達成や脱炭素化が掲げられています。

普段、ESGとかSDGsとか、持続可能性に配慮とか、ビジネスと人権と責任あるサプライチェーンとかって意識しますか。2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指していますか。循環型社会や生物多様性について考えていますか。フェアトレード認証製品を購入しペットボトル飲料を買わないでプラスチック以外の水筒を使い、ストローは紙ですか。健康のために水を飲んでますか。

SDGsについて改めて調べてみました。Sustainable Development Goals持続可能な開発のための目標です。2015年9月25日に採択された持続可能な開発のための2030アジェンダは「人間、地球及び繁栄のための行動計画」である。これはまた、より大きな自由における普遍的な平和の強化を追求するものでもある。我々は、極端な貧困を含む、あらゆる形態と側面の貧困を撲滅することが最大の地球規模の課題であり、持続可能な開発のための不可欠な必要条件であると認識する。」（出典：外務省仮訳）そうで、このアジェンダの規模と野心を示したものが「17の持続可能な開発のための目標（SDGs）と、169のターゲット」であるということです。

2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）では、「いのち輝く未来社会デザイン」というテーマのもと、SDGs達成への取組を進めるため、「持続可能性に配慮した調達コード」が策定されました。

(2) 聞いてみました。

持続可能な開発目標の達成と公園でバーベキューすることについてAI（Bingチャット）に聞いてみました。

目標3：すべての人に健康と福祉を：バーベキューは家族や友人との交流やコミュニケーションを深める機会



写真-4 普通のバーベキュー

にもなります。心身の健康にとって重要な要素です。

目標11：住み続けられるまちづくりを：公園の賑わいや安心・安全なみどりの機能を十分に活かせる持続可能な公園運営につながる可能性があります。

目標15：陸の豊かさを守ろう：公園でバーベキューすることは、陸域や内陸淡水生態系の保全や回復に配慮する必要があります。公園内に生息する野生動植物の保護や外来生物の防除、ゴミの持ち帰りや火気の管理など、公園利用者が自然環境に与える影響を最小限に抑えることが求められます。

バーベキューで使用する木炭と食材の二酸化炭素排出量は、約4.3kg/人と推定できます。

という答えが返ってきました。

(3) 持続可能な調達にチャレンジ

持続可能な開発目標の達成のために万博調達コードを参考にしたバーベキューを想像してみました。

輸送に係る温室効果ガスの排出量の削減を図るため国産品を使用します。カーボンニュートラル認証を受けた炭、循環型経済と廃棄物削減のために再利用できるもの、FSC認証を受けたもの、リサイクル素材やバイオプラスチックを使用した素材の道具や用具、容器包装を使用します。ティッシュペーパーなどはなるべく使用しません。どうしても必要な紙は古紙パルプを最大限使用します。農産物はJGAP認証を受け、環境に配慮された有機農業、温室効果ガスが削減される方法で栽培されたものを選びます。畜産物はJGAP認証を受けたもの、アニマルウェルフェアに関する認証を受けたものを選びます。水産物は水産物エコラベルのためのガイドラインに基づいてGSSI認証されたものを選びます。食品ロスを出しません。洗剤は、RSPOの認証を受けたパーム油を使用している洗剤を使用します。

4. おわりに

今回このような機会をいただき、改めて調べてみると知らなかったことがあり大変勉強になりました。仕事で脱炭素化を進めるには時間がかかることも多いと思いますが、生活の場面では少しずつでも取り組むことで地域社会に貢献できるようになるのではと考えます。